

〔さとうきび〕

1. 作付の概要

鹿児島県の2004/2005さとうきび年期の収穫面積の県合計は9,547ha、前年比96.6%で前年よりやや減少した。種子島、沖永良部島は微増、奄美大島、喜界島、徳之島、与論島は微減であった。作型では春植21.7%、夏植22.5%、株出55.9%であり、夏植えがやや増加した。品種の構成ではNiF8およびF177が減少し、Ni17の普及が進んでいる。沖縄県の収穫面積は県合計13,611ha、前年比97.5%であり、前年よりやや減少した。沖縄本島地域、宮古地域、八重山地域のいずれの地域でも同程度ずつ減少した。作型では春植12.9%、夏植え45.0%、株出し42.2%で構成比は前年と同程度であった。品種の構成ではF177、Ni9が減少し、NiTn10、Ni15の普及が進んでいる。分蜜糖の製造は種子島で始まり（2004.12.16）、種子島で終了した（2005.04.25）。

2. 作柄の概況

鹿児島県では相次ぐ台風や長期干ばつの被害により、10アール当たり収量は、県平均は5,308kg、前年比94.1%に減少した。収穫面積および10アール当たり収量の減少にともない生産量も減少し、県合計は前年比90.9%、506,773tであった。甘蔗糖度の県平均は12.6%であり、前年より1.5ポイント低下し、14.4%以上の原料は全体の18.0%と、前年の42.1%より大幅に減少した。沖縄県では鹿児島県と同様に相次ぐ台風被害のため10アール当たり収量の県平均は4,988kg、前年比83.9%に減少した。生産量は沖縄本島地域で前年比83.9%、宮古地域で78.1%、八重山地域で82.9%と全ての地域で減少し、県合計は前年比81.8%、678,967tとなった。甘蔗糖度の県平均は13.4%で、前年より0.7ポイント低い水準となった。14.5%以上の原料は19.8%と前年の39.0%より大幅に減少した。

(九州沖縄農業研究センター作物機能開発部 氏原邦博)

2004/2005年期の沖縄、鹿児島両県のさとうきび生産実績

県別	年次	農家 戸数 (戸)	収穫 面積 (ha)	10a当 収量 (kg)	収穫量 (t)	産糖量* (t)	分蜜糖 歩留り (%)
鹿児島	04/05	10,787	9,547	5,308	506,773	56,169	11.07
	03/04	10,800	9,885	5,642	557,666	68,991	12.39
	前年比 (%)	99.9	96.6	94.1	90.9	81.4	89.3

沖縄	04/05	18,110	13,611	4,988	678,967	77,276	11.22
	03/04	18,212	13,959	5,945	829,844	99,212	11.82
	前年比	99.4	97.5	83.9	81.8	77.9	94.9

両県計	04/05	28,897	23,158	5,148	1,185,740	133,445	11.15
	03/04	29,012	23,844	5,794	1,387,510	168,203	12.11
	前年比	99.6	97.1	88.9	85.5	79.3	92.1

* : 含蜜糖を含む生産量。

さとうきび及び甘しゃ糖生産実績（鹿児島県、沖縄県）より編集。